

6/8 木

# 5人がかり 制圧の映像

命の危険を訴えて帰国を拒むアフリカ出身で難民申請が却下された男性を、出入国在留管理庁の職員が力強く押さえようとした映像が公開されました。男性の代理人である大橋毅弁護士が公表したもの。男性は送還されずに済みましたか、入管法改悪案が成立すれば、新たに創設される「送還強制罪」で刑罰を科されるケースに該当する可能性があります。

## 弁護士が公表

映像が撮影されたのは2010年12月23日で、送還の飛行機に乗せる成田空港の待機室内です。飛行機の中央に男性を座らせ、両脇から2人の入管職員が押さえ込み、背後から別の職員が腰を押さえています。「難民、帰れない」と訴える男性の前に上着が現れ、「抵抗しても連れて帰るんだからあきらめなさい。抵抗すれば制圧を強めるからね。いやなら捕まつて狃ひ」と搾りをこして高圧的な命令。「神様、お腹ごと痛い」と叫ぶ男性を上廻は「もう聞かない。ほん終わ」などと云いました。

### 泣き叫ぶ男性

職員らは背中側で手錠をかけた男性の両腕を吊り上げ、「痛い、痛い」と叫ぶ男性を床の上で寝かせて、5人がかりで押さえつけ、膝に体重をかかえました。泣き叫ぶ男性に「ここが痛い」と囁き、怒鳴ります。男性は口から涙を吹いてぐったりしました。



(小糸恵)

「死ぬから帰れない」と訴え続ける男性と職員らは「あんなの国は住む場所と寝る場所がないだろ」「日本じこない人いるな。日本以外に行つて、運び出せないから」と

## 入管法改悪なら増加懸念 帰国拒めば刑罰

週に打ちをかけました。数人で抱えて飛行機に乗せました。が、男性が大声を出したため飛行機から降りました。現行の入管法では難民申請の中の人を送還できません。大橋弁護士によると、この日、男性は難民申請が却下された直後に送還が執行されました。法的に難民申請者ではないのに、飛行機から降りました。飛行機から降った際に、再び申請する時間を持たず送還されるのです。弁護士らが「脱逃犯」と批判。別の送還を認める事例で送還判断が出来たやり方です。

### 3回の申請で

裁判で入管法改悪案が可決されれば、却下と再申請の繰り返しを免め必要もなく、3回以上の申請者は抵抗しても送還するしかが可能になります。現在男性は2回国の申請中ですが、却下されながら一度申請しても送還できません

また入管法が改悪されば、男性のように送還を拒む人を「送還強制罪」で罰せられるようになります。

大橋弁護士は男性が暴力を振るわれた理由について、「被はれておらず、帰らないと首く續けた」と対応していか思えない」と指摘。「入管は送還を受け入れさせるために行っている。現行法では曲がりなりにも送還を免れていたが、改悪後は「帰れない」と主張する人を暴力で送還する可能性が極めて高い」と批評しました。